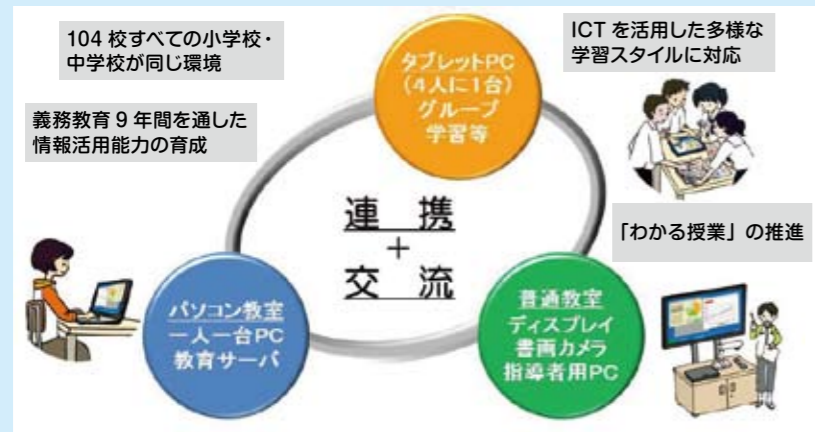


小・中学校の普通教室に常設ICT、 タブレット型端末、教育クラウドも導入 ～「姫路スタイル」によるICTを活用した多様な教育活動の推進～

姫路市では、国の教育動向をふまえて、段階的に教育の情報化を推進しています。その特徴は、小中一貫教育と連動した取組として「普通教室の常設ICT 機器」「協働学習用のタブレット型端末」「パソコン教室」の3要素を連携して活用するという。ICT環境整備で先頭集団を行く姫路市の考え方と整備内容を、井上幸史指導主事に語ってもらいました。



▲姫路スタイルの学校ICT活用環境

小中一貫教育と連動した取組として、小中学校共通のICT環境を整備

姫路市のICT環境整備は、平成3年の教育用コンピュータ導入から始まり、平成19年度には教職員1人1台端末やグループウェア等を整備しました。平成24年度は学校サーバ廃止に伴い総合教育センターにセンターサーバを設置、同時に校務支援システムを導入しました。

また、平成25年12月には、未来を担う子供たちが、グローバル化する時代を生き抜く確かな力を育むことを目標とし、ICTを活用した質の高い教育環境の実現に向けて「学校教育情報化推進事業」に着手しました。これにより、市内104校すべての小中学校の普通教室への大型ディスプレイ・書画カメラ（実物投影機）・指導者用パソコンと併せ、各校一定数のタブレット型端末、授業支援システ

ム等の整備が完了しました。

ここで注目していただきたいのは、普通教室の常設ICT環境を最優先し、小学校だけでなく中学校も含めて、すべての普通教室（約1700教室）を統一したICT環境にしたということです。姫路市では小中一貫教育に注力すると同時に、教育の情報化が姫路市の魅力向上につながるという積極的な推進をしています。

さて、小学校では平成21年のいわゆるスクールニューディール（※1）により、大型ディスプレイ・書画カメラ・指導者用パソコンのセットが常設環境として整備されていました。小学校では先生や児童がこれら常設のICT機器を活用した取組が日常風景になっているのに対し、中学校には同様の環境がなく、両者のICT活用環境には大きなギャップがありました。

そこで、姫路市は、日常の授業の中で子供が自分の作品や資料の



▲姫路市教育委員会姫路市立総合教育センター教育研修課 井上幸史指導主事

提示ができ、先生は自作教材やインターネット上の教材を「手軽に」「確実に」「高画質で」再生できる環境が第一と考えて、大型ディスプレイ、書画カメラ（実物投影機）、指導者用パソコンの3点セットを小中共通のICT環境の基本としました。

タブレット型端末はICTを活用した多様な活動を可能にするものとして、おもに協働学習に使うという位置づけの中で、4人に1台分を整備しました。具体的には、11台を1セット（教師1台、児童生徒10台）として、これを各校に1～2セット導入しました。職員室に充電保管庫があり、必要な学級が持ち回りで使います。

また、姫路スタイルでは、パソコン教室をこれまでと変わりなく重要なものと位置づけています。

1人1台の環境で安定して稼動する・高画質の映像教材も確実に試聴できる・周辺機器が充実しているなどのパソコン教室の優位性を活かしつつ、普通教室や可動型のタブレット型端末と連携した取組を進めていきたいと考えています。

ICTを活用した多様な教育活動を推進

この環境整備から1年が経過

し、市内の小中学校では、これまでの黒板や自作教材・教科書を使った授業の中にタブレット型端末や書画カメラ、大型ディスプレイの特性を組み込むことで、新しい授業スタイルが生まれています。

これまでに多くの公開授業が実施されましたが、どの授業も目的を明確にしたICT活用の場面が設定されていることと併せ、子供同士が教えあい学び合う協働学習が効果的に組み込まれていました。

一方、これらの取組をさらに全校で推進していくためには、「一斉・個別・協働」の学習活動のイメージを共有していくことが大切であるため、私たちは、次のようなステップを考えています。

(1) まずは普通教室で常設ICT環境を活用した授業を日常的に実践。

(2) パソコン教室では、パソコンの基本的なスキル習得や資料作成などに取り組む。

(3) タブレット型端末については、(1)(2)と連携させるような形で、どのような可能性があるのか、どのような授業ができるのか具体的な授業例を蓄積していく。

(4) これらの成果や課題を踏まえて次の段階に進む。

活用事例の蓄積と共有については、統一した書式により各学校より報告してもらうようにしており、現時点（H26.12.11現在）で約300点の事例が集まっています。この活用事例には、活用場面の写真とともに学習活動のねらいやICT活用の目的、課題や留意点を記載する欄を設け、教育実践の共有に有効に活用できるようにしています。現在、各校からの事例は市立学校のみ閲覧できる内部ポータルサイトに掲載していますが、将来的には特長な優れた事例を選んで、総合教育センターのホームページ上で公開していく予定です。

子供たちが課題の発見と解決に



◀教育クラウドのテレビ会議機能を使った交流授業風景

▼グループによるタブレット端末を使用した協働学習の様子



向けて、自分の立場を明らかにした上で協働的な学びに関わり、新たな価値を創造していく。このように、ICTの特長を最大限活かしつつ、子供たちが主体的・協働的に学ぶ学習活動を大切にしていきたいと考えています。

教育クラウドを導入 先行的な利用からスタート

今後は、普通教室の授業の中で他校と交流したい場面が出てくるでしょう。また、様々な情報を市内全校で共有するような教育活動にも取り組んでいかなくてはなりません。そこで、情報共有とコミュニケーションのツールとして、教育クラウドサービス（マイクロソフト Office365）を導入しています。これには、クラウド上のデータ保存領域だけではなく、テレビ会議の機能も備わっているため、普通教室の常設ICT環境と教員1人1台端末を連携させること

で、施設が離れた学校間の交流も実現可能になります。現在、この仕組みを活用した取組が少しずつ始まっています。

また、クラウド上にデータを置くことについては、情報セキュリティポリシーとの関連も考慮し、現時点では希望者を募って試験的な利用を始めています。新たな取組なので、段階を追って成果や課題を踏まえながら、少しずつ教育クラウドで実現できる教育活動のイメージを先生方と共有していこうとしています。

本市の取組は始まったばかりです。今後も他都市における先導的な取組の成果や教育動向を見据えつつ、教職員研修や活用支援の充

実、事業効果・成果の継続的な検証を行い、子供たちにとっての質の高い教育環境の実現を目指したいと考えています。

◀各学校が提出するICTの活用事例報告の記述例

※1) スクールニューディール：政府が平成21年4月にとりまとめた「経済危機対策」として実施された政策。約4千9百億円の予算が計上され、学校耐震化の早期推進、学校のエコ改修、ICT環境の整備等が推進され、多くの小中学校の普通教室に大画面デジタルテレビ等が整備された。